



今の私たちがらきっと・・・

教室の背面や側面に掲示されている学級目標。そこには「こんな学級を創っていきたい」という子どもたちと担任の願いが込められています。そして自分がどんなふうになりたいかという個人目標があり、また行事があると目標を立てて臨みます。学期の終わり、一年後、取組が終わったとき。どのような自分になっていたいか、そのためにどんなことを心掛けるか、どんなふうに行動するか。子どもたちの思い描いた目標を大切にふくらませていくのが学校の大きな役割です。

とくに大きな行事では取組の期間が長い分、子どもたちの力の入れようが違います。思いの強さも違います。たとえば、今月行われた運動会。本番はもちろん、練習の段階から子どもたちの気合の入れかたは本番同様、最高潮です。その気持ちの高揚から、リレーや玉入れなど勝敗がついた途端、とても悔しがらる様子が見られるときがあります。勝ち負けにこだわりすぎるのはよくないのかも知れませんが、練習段階から全力を出し切り、チームの勝利を目指す姿勢があるからこそ悔しいのだと思います。その悔しさを次のステージへのバネにすることができれば最高だと思います。そしてうまく折り合いをつけながらプラスに変えていく力を身につけるためにも、子どもたちにはたっぷりと喜怒哀楽を味わってほしいなあと思います。

子どもたちの運動会の感想文を読ませてもらっていても、経験は人を成長させるってほんとだなんてつくづく思います。そして目指すものがあることの強さもひしひし伝わってきます。

一つ紹介してみます。よさこいをしっかりやり遂げた達成感が綴られたあとに続く文章です。

でも、まだ心配はあった。

「来年は、下の学年にしっかり教えてあげられるだろうか…?」と思った。でも、

「今の私たちがら、きっと大丈夫だろう。」とも思った。6年生になった私たちが目に浮かんだ。

今の私たちがら・・・そう感じられたのは、目標がしっかりと胸に刻まれていたからだだと思います。そして一緒に頑張るクラスのなかまや同じ団のなかまがいたからだだと思います。さらにそれだけでなく、頑張っている子どもたちに対し、優しく見守りあたたかなエールを送って下さった保護者の皆様がいて下さったからだと感じています。努力や頑張りは、“認められたり”、“褒められたり”することで自信に変わっていくのだと思います。そして積み重ねられた自信の層が、自分を肯定し、人を肯定する気持ちにつながっていくのだと思います。

さて、明日からは一学期のまとめ月。ほんとうにはやいものです。この三か月の間に、学級の醸し出す空気もよい感じにしっかりと落ち着きを見せはじめました。子どもたちもなりたい自分へと何歩か近づけたように感じます。できたこと、もう少し頑張りたいこと、新しく挑戦したいことなど、丁寧に振り返り、次に生かすためのまとめ月にしてくれたらと期待しています。

背の高さを超えそうなミニトマト、キャベツの葉の上で存在感を発揮する青虫・・・、教科等で栽培している植物や生き物たち。ときおり見かけると、その成長の早さに驚かされます。人はもちろん、すべての生き物たちも気づかないうちにぐんぐん成長しているんだなあとつくづく感じます。

じくじくとした気温に体を馴染ませるのも一苦勞です。どうぞお体にご留意いただければと存じます。